

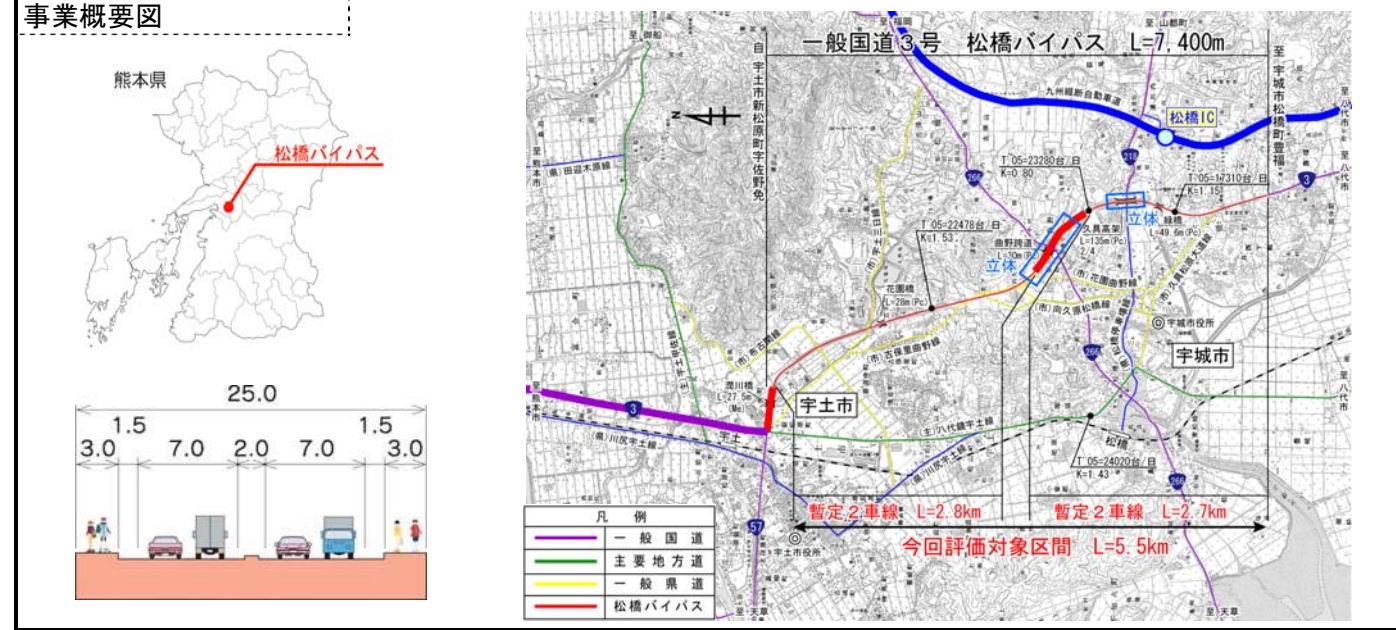
新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業の概要

事業名	一般国道3号 松橋バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：熊本県宇土市新松原町字佐野面 至：熊本県宇城市松橋町豊福	延長	5.5 km		
事業概要	<p>一般国道3号は、九州を縦断する骨格幹線道路であり、当該事業（松橋バイパス）区間は、熊本県都である熊本市と宇城市・氷川町や八代方面の県南地域を結ぶ主要な幹線道路の役割を担っている。</p> <p>本事業は、昭和48年に都市計画道路の指定がなされ、平成4年には全線暫定2車線で供用を図ったところであるが、近年の交通量増加に伴い、混雑が著しい状況となっている。この交通混雑緩和を目的として暫定2車線を完成4車線にする延長5.5kmの事業である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>当該事業（松橋バイパス）区間は、熊本県都である熊本市を中心とした経済圏の拡大等により交通量の増加が著しく混雑度が1.50を超えている状況にある。</p> <p>また、一般国道3号として八代方面、鹿児島方面への交通を担っている重要な路線であり、さらに九州縦貫自動車道の松橋ICへのアクセス道路という機能も抱えているにも拘わらず、暫定2車線供用となっており、同区間の交通負荷が大きいものとなっている。</p> <p>当区間以北の熊本市方面は4車線事業が完了しており、本区間も4車化を行うことで交通混雑の緩和や安全性の向上、地域の産業や開発計画の支援を図るものである。</p>				

全体事業費	33億円	計画交通量	30,100～40,500台/日
-------	------	-------	------------------



関係する地方公共団体等の意見

- 一般国道3号「緑川橋～八代市区間」整備促進期成会※から国土交通省、九州地方整備局に対し年1回程度の整備促進要望を受けている。（※S51年発足、沿線自治体3市2町）

事業採択の前提条件

- 便益が費用を上回っている。
- 沿線自治体の要望もあり、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	6.9	総費用：46億円 （事業費：23億円 維持管理費：23億円）	総便益：322億円 （走行時間短縮便益：311億円 走行費用減少便益：5.1億円 交通事故減少便益：6.4億円）	基準年：平成19年													
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=6.3 (交通量 -10%)	B/C=7.6 (交通量 +10%)														
事業の影響	評価項目	評価	根拠															
			渋滞対策	○	<p>周辺幹線道路を含め渋滞の解消・緩和を図る</p> <p>【渋滞損失時間の改善】当該区間 約11.4万人時間/年 (H18確定値:H17セサスNo1014, 1015, 1016) 削減量 約11.4万人時間/年 (約11.4万人時間/年→解消)</p> <p>【1kmあたり渋滞損失時間】 当該区間 2.5万人時間/年・km (H18確定値:H17セサスNo1014) 並行県道 17.8万人時間/年・km (H18確定値:H17セサスNo4029)</p> <p>【渋滞度曲線】 ・当該区間・並行県道ともに県内道路(県道以上)の上位2割以内に該当</p>													
			事故対策	○	<p>周辺幹線道路を含め、死傷事故率が高い区間の事故の減少が見込まれる</p> <p>【死傷事故率】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>単路部</td> <td>交差点部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>当該区間</td> <td>272.3</td> <td>633.1</td> <td>件/億台^年</td> </tr> <tr> <td>県平均</td> <td>48.0</td> <td>79.6</td> <td>件/億台^年</td> </tr> <tr> <td>率比</td> <td>5.67</td> <td>7.95</td> <td></td> </tr> </table> <p>注) ITARUDA区間による最大値 注) 平成14～17年交通事故統合データによる</p>		単路部	交差点部		当該区間	272.3	633.1	件/億台 ^年	県平均	48.0	79.6	件/億台 ^年	率比
	単路部	交差点部																
当該区間	272.3	633.1	件/億台 ^年															
県平均	48.0	79.6	件/億台 ^年															
率比	5.67	7.95																
歩行空間	—	注目すべき影響はない。																
社会全体への影響	住民生活	◎	交通渋滞の緩和により、地域住民の移動円滑化が図られる。															
	地域経済	◎	沿線(宇土市、宇城市)の製造品出荷額が増加傾向にあり、5年で年間130億円も増加。宇土市～松橋IC間の所要時間が約6分短縮(14分→8分)され、円滑な物流移動が確保でき、地域産業・開発計画の支援が図れる。															
	災害	—	注目すべき影響はない。															
	環境	—	注目すべき影響はない。															
地域社会	◎	松橋バイパスは、既存の工業団地や大型商業施設、将来計画地などの物流拠点と、九州縦貫自動車道松橋ICとの連携強化を図ることができる。																
事業実施環境	○	一般国道3号「緑川橋～八代市区間」整備促進期成会から積極的な要望を受けており、地元の期待も大きい。																

採択の理由

費用対便益は6.9と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。現在、沿線の宇土市では、当該区間の近隣に位置するJR宇土駅周辺の開発計画を進め、九州新幹線の開通(H23春)に合わせた基盤整備を図っている。このため、当事業区間沿線には今後大型施設の進出や住宅の整備などが見込まれ、松橋バイパスの4車化がその地域活性化の支援となり、整備効果は高いものと判断される。以上より本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。